

青梅市文化財ニュース

第322号

平成26年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

青梅・羽村子ども体験塾霞台遺跡発掘調査体験記

7月29日（火）から5日間にわたり、青梅・羽村子ども体験塾の発掘調査体験が行われました。今年は青梅市の小中学生7人、羽村市の小学生11人が発掘調査を体験しました。発掘調査体験は平成18年度より行われており、今年で10回目となります。

霞台遺跡は霞川右岸の野上2丁目から大門2丁目付近にかけて約326,400㎡の面積をもつ広い遺跡です。1万5000年前から現在まで連綿と人が暮らしていた痕跡があります。見晴らしや日当たりが良く、人々の生活に欠かすことのできない大切な水についても、近くを流れている霞川から手に入れることができたため、住むには絶好の場所だったに違いありません。特に弥生時代終わりから古墳時代はじめ頃には大きな集落があったことが調査によりわかっています。

霞台遺跡が初めて発掘されたのは昭和47（1972）年、大門市民センター前の道路工事中でした。工事現場から住居の跡と土器が出土し、急遽発掘調査が行われました。その後、霞台遺跡の発掘は昨年まで、子ども体験塾も含めて54次にわたり行われ、多くの住居跡、土器、石器、鉄器などが発見されています。

青梅・羽村子ども体験塾で発掘する野上2丁目旧市営住宅跡地にも住居跡が16軒確認されており、その内10軒を子ども達が発掘しました。今回は今から1700年前、古墳時代はじめの14号住居跡を発掘しました。以下、子供たちの発掘作業の様子をお伝えします。

7月29日（火） 天気：晴れ 参加者：午前4名、午後7名

午前10時、発掘開始。道具の説明、注意事項を聞き、現場に移動。黒土の地面に白く線引きされているのが住居の範囲なので、十字に土を残して中心から掘っていく。発掘道具は園芸に使う小さなスコップと土を入れて外に運ぶ箕。すこしずつ地面をはがすように均等に掘る。草取り鎌、竹べら、中華料理のお玉、スプーン、フォーク、竹串など子ども達もびっくりの道具が使われていた。小さな土器片が見つかり、全員で調査員さんから説明を聞く。古墳時代はじめの土師器という薄手の土器片だ。掘り下げていくうちに黒い土に混じって黄色い粘土のような土の塊が出てくる。黄色い土は関東ロームとって富士山が噴火した時に降り積もった火山灰。住居は関東ロームの面を掘って作られている。午後も同じように掘り、20cm位掘り下げて作業終了。毎日、日誌も書きます。

7月30日(水) 天気：晴れ時々曇り 参加者：午前6名、午後7名

熱中症に注意して作業開始。炭が出てくるようになる。「火事で焼けた住居かもしれない」と説明がある。大きな炭の塊には周囲に竹串を差して目印にする。南西側に土器が出てきた。土器の周りの土を慎重に除いていく。午前午後で40cmくらい掘る。

子供たちの日誌から…土をほる。同じ高さにするようにほらないといけないのでむずかしい

7月31日(木) 天気：晴れ 参加者：午前6名、午後6名

昨日の土器はつぶれているが、大きくて、^{だいづきがめ}台付甕という円すい台の脚のついた甕だそう。炭も柱の形に残っていて、焼けて倒れたのだなということがよくわかる。50cm掘る。住居の中心部分の土が赤くなっていく。家のまん中には炉があって、火を燃やしていたのでその部分だけ土が焼けて堅く、赤くなっている。

8月1日(金) 天気：晴れ時々曇り(風がなく猛暑) 参加者：午前8名、午後8名

今日が掘る作業の最終日。地面を掘り下げて造った家なので、周りには土の壁ができる。少しずつ外側に掘っていき、黄色い土(関東ローム)の壁面を出す。午後、ジュースとアイスキャンディーの差し入れがあり、みんな大喜び。堅くたたいて土間状態になった黄色い床面が一部出てくる。

子供たちの日誌から…大きいすみや形がしっかりしているすみをはけと竹ぐしを使ってきれいにした。ねん土の所とかかべぎわをまわりの高さにあわせた。3つすみをみつけた。

8月2日(土) 天気：晴れ 参加者：午前7名、午後8名

発掘体験最終日、子どもたちは住居跡を実測し、方眼紙に記録する作業に挑戦。1m四方に張り巡らした糸を基準に10分の1の縮尺で点を打っていく。紙に記録することで、住居跡の面積がわかる。また、レベルという機械を使って住居の深さも測った。14号住居跡は南北3.3m、東西2.9m、床まで約60cmの四隅がやや丸みを帯びた四角形だということがわかった。



発掘調査体験の様子

子供たちの日誌から…やけ土がたくさんあった。すみが丸たみたいになっていた。かくのやはかるのがさんすうみたいでおもしろかった

*14号住居はどうして焼けてしまったのか、炉の火が移ったのか、隣から燃え移ったのか、それとも意図的に焼いたのか、子供たちの想像はふくらみました。1700年前の人々の生活に触れた貴重な5日間でした。

(文責 小島みどり)